

## ◆ 農業収支と家計 ◆

### 古文書にみる宿場と村の生活 ⑦

膨大な記録の一部を紹介するが、天保七年の耕作は水田五反歩・畑二町八反歩、合計三町三反歩の大規模経営である。総収入七六兩一分余、支出のうち肥料代十五兩余・奉公人給金等二五兩・年貢諸掛五兩、合計四五兩余となっている。差引残額が二二兩余で、この中から家計費が支出されたとみられる。天保八年も総収入七六兩余、差引残額二九兩余であるが、天保九年には総収入は九二兩余と高額になっている。しかしこの年は支出も多く、最終の残金は十兩となっている。天保十年は総収入七五兩余、総支出六四

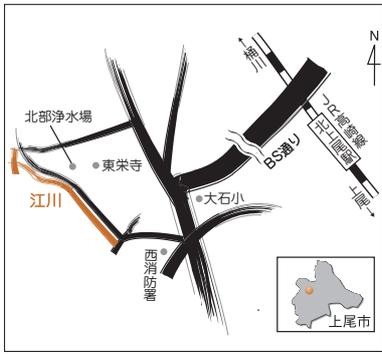
両余、差引残額は十一兩余である。矢部家は名主も務める上層農民で、経営規模も大きく、紅花などの商品作物も大量に栽培している。そのため収入も多いが、肥料代、奉公人手間賃も膨大である。一般農民の耕作規模は一町歩程なので、その点矢部家の経営は当時の普通農民の収支を示しているわけではない。ここでは大規模経営者が、有利な商品作物を大量に作付けして、高利益を上げている姿が写し出されている(前掲書)。



屋敷森のある民家が多く残る中分

現鴻巣市大間の福島家には、江戸時代の天保期(一八三〇〜四四)に記された農書「耕作仕様書」が遺されている。著者は名主を務めていた福島貞雄であるが、ここでは

作物の栽培法だけでなく、農業収支・家計のモデルケースが三例記されている。三例は耕作規模や労働力の相違で分類したものであるが、上尾地域の農業に類似するのは田畑一町二反の耕作で、夫婦二人で経営している例である。ここでは総収入を十八兩計上しており、この中から年貢、肥料代、種代、奉公人等手間賃、夫婦の生計費を支出している。支出の中で最も多いのが生計費と奉公人経費を合わせたもので、ここで八兩程度支出している。次いで多いのは年貢、伝馬入用、村人用等で、三兩余り支出している。当時の一般農民の収入や支出は、ほぼこの程度であったと推定される(『日本農書全集22「耕作仕様書」』)。



(元埼玉県立博物館長・黒須茂)

二(元埼玉県立博物館長・黒須茂)



○に入る文字や数字を当ててください。

新しい学び合いの場  
「○○○○市民塾」を開始

(ヒントは2ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、10月22日(月)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先：〒362-8501本町3-1-1  
メールアドレス：s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は11月号のこのコーナーで。前号の答えは「不活化ポリオ」でした。ご応募ありがとうございました(応募者29人)。

### 市の人口・世帯

(平成24年9月1日現在)

22万7,393人

男/11万3,427人

女/11万3,966人

※前月より31人減。

9万3,861世帯

◆『広報あげお』は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅の他、市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。  
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス“ぐるっとくん”を利用してください。